

SASTIK[®] III Thin-Client Layerからスタート。 1年に及ぶ検証を通して、信頼できるBYOD体制を推進。

ヘリコプター、ビジネスジェットの運航を軸とする総合航空サービス企業、朝日航洋株式会社。

トヨタグループの一員でもある同社は、安全、安心を支える基幹情報システムとして、「NAIS(通称：ナイス)」を構築し、タイムリーな情報共有を進めています。

業務で日本全国に出張することも多く、外出先からでも安心して情報にアクセスできる、

しかも、BYOD環境でも管理しやすいソリューションとしてSASTIK[®] III Thin-Client Layerを採用していただきました。

実際の導入に際しては約1年間の実証期間を設けるなど、多角的に利便性を評価いただいた上での導入です。

写真右より

航空事業本部 整備統括部
品質保証室 情報管理グループ
鹿野 誠 氏

情報システム部
システムグループ
細谷 雄二 氏



AERO ASAHI, Ltd.

セキュリティを高めると 利便性が低くなる矛盾に立ち向かう

朝日航洋社は、ヘリコプター、ビジネスジェット市場において、日本を代表する企業です。人々の安全、安心を維持するため、今日も精力的な機体整備が行われています。

同社では機体の運行管理をする基幹システムとして、「NAIS (Next Aviation Information System)」を7年前に構築し、ニーズに合わせて必要なバージョンアップを続けています。しかし、情報漏洩抑止や機密情報保護のための取組の強化、更なる機能作りこみに伴い発生する経済的問題等により、開発スピードも遅くなってしまいます。その穴埋めをするために、整備スタッフが中心となって、Excelを使った”独自のスタンドアローンな情報共有システム”が構築され、整備スタッフの間に浸透してしまっていたのです。

航空事業本部 整備統括部 品質保証室の鹿野誠氏がこう話します。

「当初は整備情報を共有するためのグループウェア的存在でした。Excelのマクロを使った情報共有システムは、苦肉の策として作られたものです。Excelベースですので、オンラインで、同一の情報を全員が即時に活用することは困難です」

機体と共に、全国各地を飛び回る整備スタッフからは、必然的にNAISを含む会社ネットワークへアクセスするためのツールへのニーズは有ったものの、経済的条件、情報セキュリティ的要求を満たすToolが見つからなかったことから社外アクセスを実現できなかった中で、別の情報共有システムが活用され、会社の基幹システムである「NAIS」が活用されないのは整備統括部にとってはゆゆしき問題。遠隔地からでもNAISを使う環境を、SASTIKで用意することにより、情報共有をリアルタイムに、情報を落とすことなく活用できる環境整備へと本腰を入れて取り組む必要が生まれてきたのでした。

BYODのルールづくりと 情報共有ニーズの狭間で

「より精巧な機体整備管理や、営業時のお客様への迅速な対応によって機会損失を最小限にするために、NAISを中心とした情報共有を進めるのが私たちの使命です」(鹿野氏)

情報システム部システムグループの細谷雄二氏が続けます。

「もっとNAISの情報を活用してもらおうと考えると、外出先から基幹システムの情報にアクセスできるシステムが必要になります。しかも、低コストで、情報を管理することが容易。情報流出、機器の紛失というリスクをコントロールできるものが理想です。実際にはまだ時間がかかりますが、SASTIKを突破口にしていきたいと思います」



同社では、これを実現できる幾つかの方法を試験し、iPadの配布、サーバの増設など新たな予算措置、管理の負荷が増大するシステムは導入を見送りました。

また近年、デバイスの多様性からBYOD (Bring your own device)も注目されていますが、運用のためには確固たるポリシーが必要です。

「当社ではBYODルールが確定されていないため、これも積極的にアナウンスしづらい状況です。しかし、情報の共有と活用を止めるわけにはいきません」(鹿野氏)

できるところから、一步一步、啓発していきたいとの思いから、

「外部からNAISにアクセスする際には、SASTIK®を使ってください」と、関係部署のキーマンにSASTIKを配布し、活用してもらっています。

「使用者にはアンケートを実施し、SASTIK®の使い勝手を集計しましたが、“PCにデータが残らないので、安心して使うことができた”との回答も数多く得られました」(細谷氏)

小規模からでも始めやすく、体験を通じて実感できる操作性、機能性は、確実に認知されてきているようです。



■SASTIK Ⅲ導入決定の経緯

同社の導入ニーズ 基幹システム「NAIS」への情報集約と、外部からの情報活用メリットの提供

外部からでも基幹システムと連動が取りたかった	<ul style="list-style-type: none"> ○データの分散回避 ○基幹システムが持つ「正」情報の重視 ○メールなど、出張先からでも活用頻度が高いデータを、いつものアドレスで
BYODルールが未決定	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹システムはWebブラウザが必要不可欠な状況(Microsoft® IE) ○情報漏洩のリスクを極力回避したい
進化する基幹システム	<ul style="list-style-type: none"> ○段階的なバージョンアップ ○情報機器配布、サーバ(新設費用等を圧縮したい) ○導入が簡単で、実践的な使用を通して使用啓発をしていくことができる

SASTIKの導入メリット

①低コストで実現可能	既存のシンクラアライアントなどの導入などに比べコスト最大1/10に削減。
②導入までの工期も短縮	既存のシステムリソースにSASTIKサーバを導入するだけ。導入までの工期がスムーズ。
③使い方がとにかく簡単	SASTIKは事前インストール・設定不要。PCIに挿すだけで自動起動(弊社特許技術)。すぐに利用して管理・運用・教育負荷軽減。

「整備情報改善プロジェクト」の選択は、SASTIK®Ⅲ

同社の社員数は約1,200名。整備のセクションだけでも約300名のスタッフが存在します。こうしたスタッフが外出先からでもNAISにアクセスすることによって、業務効率是一段と高まるはず。

「出先における迅速な対応により、業務効率ももっと高まります。現在、休日出勤をして報告書等を作成している人もいますから、長い目で見れば残業代等のコストカットにもつながると考えています」(鹿野氏)

こうした様々な問題解決のため、整備統括部では、社内の情報統合とBYOD等の活用を急ぐため、「整備情報改善プロジェクト」を

立ち上げました。

「とにかく“誤のデータ”の存在を無くし、全社的な情報統合を急ぎたい」(鹿野氏)

「NAISの次のバージョンアップは2014年4月を予定しています。1～2年内には現在の問題を解決できるNAISにしていきたいし、なると思います」(細谷氏)

SASTIK®に対するお二人の評価は、「会社のシステムにつなぐための有効な道具」(鹿野氏)

「PCにインストールしなくても使えることが一番のメリット」(細谷氏)

とそれぞれですが、社内の基幹システムNAISを生かすための重要なツールとして、SASTIK®は大きな期待を担っています。

PROFILE



△ AEROASAHI 朝日航洋株式会社

<http://www.aeroasahi.co.jp/>

ヘリコプター、ビジネスジェットの運航を軸とする総合航空サービス企業。トヨタグループの一員でもあります。

航空事業は、安全の確保を経営の大前提とし、ヘリコプター事業を常に切り拓く業界トップのプロ集団として君臨。空間情報事業は、3次元計測・解析技術を活かした防災環境の技術屋集団と地方自治体のアセットマネジメントのプロ集団、ITSの先進技術集団から構成するなど、広く社会に貢献する企業として厚い信頼を獲得しています。

航空事業本部 整備統括部
品質保証室 情報管理グループ
鹿野 誠氏



情報システム部
システムグループ
細谷 雄二氏



開発元

SASLITE

株式会社サスライト

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-8-1 九段101ビル3F

TEL : 03-5275-0123

FAX : 03-5275-0124

Mail: info@saslite.com

ISO 27001
BUREAU VERITAS
Certification



<http://www.saslite.com>

*このカタログは2014年3月現在の情報です。製品仕様については予告なく変更することがあります。

*記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

*SASTIK (サスティック) は株式会社サスライトの登録商標または商標です。